　一見して、二つのジョークの内容はまるで異なる。だが、両者は根本的なところにおいて共通している。共通しているのは、二つのジョークのユーモアの在り方である。いずれのジョークも最後に予測し難い展開を迎える。そして、その急展開が読者に不意打ちをかけて笑いを誘う。たとえば、最初のジョークでは、借り手の男は貸し手より立場がめっぽう弱い。そのため、貸し手が借金を半分帳消しにしてくれると発言した時、借り手は感謝するだろうと読者は自然と推測する。けれども、借り手は感謝するどころか、むしろ対等な立場から厚かましく「『それは有り難い。あとの半分はボクが忘れるよ。』」と発言する。そして、この不意な厚かましさは読者に衝撃を与える。二つ目のジョークでも同じユーモアが伺える。囚人が犯罪の証拠を隠そうとしていたように見えた。しかし、実は奇想天外な方法で警察を誘導し、父のいも畑を手伝っていたのである。要するに、いずれのジョークでも、読者の期待をすっかり裏切る奇異な結末が面白いのである。